

## 評価会議（平成30年度期末）における委員の評価及び意見

## 受託者等に対する評価

## 1 項目ごと評価

評価項目		A委員	B委員	C委員	
支援の内容および効果等	協議会の取組（イメージ） 自律的運営に向けた地域活動	(1)「地域課題への取組」にかかる支援の状況（実績）及び効果等 (配点5点)	3	3	4
		(2)「つながりの拡充」にかかる支援の状況（実績）及び効果等 (配点5点)	3	4	3
		(3)「組織運営」にかかる支援の状況（実績）及び効果等 (配点5点)	4	3	4
	事業の実施体制等	(1)自由提案による地域支援の状況（実績）及び効果等 (配点5点)	3	3	4
		(2-1)スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制にかかる支援状況（実績）及び効果等 (配点5点)	4	4	4
		(2-2)フォロー（バックアップ）体制等にかかる支援状況（実績）及び効果等 (配点5点)	4	3	4
		(3)区のマネジメントに対応した取組にかかる支援状況（実績）及び効果等 (配点5点)	3	3	3
	策（取組） 今年度の重点支援	区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策（取組）にかかる支援状況（実績）及び効果等 (配点5点)	3	4	4

## (採点基準)

- 5点：期待レベルをはるかに上回っている。
- 4点：期待レベルを上回っている。
- 3点：概ね期待レベルに達している。
- 2点：期待レベルを下回っている。
- 1点：期待レベルに全く達していない。

## 主な意見等

- ・ 地域カルテの作成とその可視化の上での協議が必要。
  - ・ コミュニティ型集団とアソシエーション集団人材との接点を「防災」のように増やすべき。
  - ・ 地域カルテを活用して、早く各地域が将来像を議論できるように支援していただきたい。
  - ・ ボランティア・市民活動センターとの連携で、新たなつながりを生み出してはいるが、アンケートではなお3割近くが「あまり役に立たない」と答えているので、さらに好事例を増やしていただきたい。「企業・NPO・学校・地域交流会」はユニークな試みだが、地域の参加者をもっと増やせないか。
  - ・ 「みんなの地域活動ハンドブック」の対象は誰なのか分かりづらい。(前半は一般住民向けのコンテンツ、後半は補助金や会計など役員向けの注意事項になっている)
  - ・ 効果を見据えた支援を意識していただきたい。
- 
- ・ 地域担当制によるこまめな訪問が功を奏している。
  - ・ ボランティア・市民活動センターとの連携は外からの刺激として大事だが、地活協のコアを担う人材育成や引継ぎについても考えていただきたい。
- 
- ・ まちセンへの信用が高まり、会計事務の軽減化も進みつつあることは評価できる。ボランティア・市民活動センターで全区対象の催しを開くだけでは波及効果が薄いので、地活協への出前講座も検討していただきたい。
- 
- ・ 分析はとても丁寧で正確と思う。台風21号での気づきを活動に反映する方向に進めて欲しい。
  - ・ 組織運営の人材不足の要因として「従来の人材育成システムが機能しなくなった」ことをあげ、今後求められることとして、分業や仕事の範囲の明確化を提案しておられるが、これらは20年以上前から言われてきたことである。子どもがいない世帯や単身者を人材ととらえ、事業の中身や組織の運営方法を抜本的に見直さないと、改善しないのではないか。
- 
- ・ 現況分析が浅く、受注者への指示、地域担当者の地区ごとの取組みの異なりを示しにくいのではないか。